

未来への決断！私たちの選択。



渡すものがバト

よみなら原英

池田博穂 監督作品

脚本：ジェームス三木

製作／「日本の青空」製作委員会 (有)エンティス

企画・製作／小室皓充
プロデューサー／佐々木裕二
撮影／野間 健
撮影補／岩崎 登
照明／松井博
録音／藤本賢一
整音／本田 孜
音楽／小林洋平
音楽プロデューサー／安田裕司
美術監督／丸尾知行
美術／中川理仁
装飾／藤田 徹
ヘアメイク／金森 恵
編集／栗原洋平
スクリプター／赤澤 環
助監督／加藤文明
アシエイトプロデューサー／桑山和之
ラインプロデューサー／大原盛雄
キヌシエイトプロデューサー／北川義浩

赤塚 真人
高林由紀子
渡辺 梓
中原果南
松山愛佳
反田孝幸
小林さやか
藤本喜久子
山下規介
鈴木正幸
小林尚臣
山下洵一郎
ケーシー高峰
刈谷俊介
穴戸 開

【あらすじ】

1969年春、過疎化の進む巻町(新潟県)に異変が起きた。出稼ぎ大工と行商で細々と食いつないできた角海浜地区の地価が、なぜか値上がりしはじめたのだ。

老舗割烹旅館「珊瑚屋」を経営している情報源に事欠かない五十嵐家に、どこかの企業が角海浜にレジャーランドを開発するらしいという朗報が舞い



込み、みな期待に夢をふくらませる。ところが6月、北東電力が巻町に原発建設を計画していると「新潟日報」がスクープ。

膨大な補助金でさびれた町が息を吹き返すと力説する議員や町職員もいたが、巻町民の多くは戸惑った。原発そのものをよく理解していなかったからだ。

北東電力は巻原発計画を公表。何十億円もの協力金や補償金に群がる人々は、あの手この手で計画を推進しはじめる。

町が、人が、家族が変わっていった：

「日本の青空」「いのちの山河」につづくシリーズ3作目!

渡されたバトン さよなら原発

池田博穂
監督作品

脚本
ジェームス三木

企画・製作:「日本の青空Ⅲ」製作委員会・有限会社インディーズ

原発の是非をめぐって
四半世紀にわたる巻町民のたたかい
波乱に満ちたドラマの映画化



3・11東日本大震災・原発事故により原発の安全神話は崩れ去り、国の原発依存に対する国民の怒りと不安は「原発NO!」のたたかいとなって各地に広がっています。本作は、新潟・巻町(現・新潟市西蒲区)で原発建設をめぐって、四半世紀という長年にわたるたたかいで、住民投票を実現し、原発建設を阻止した実話をベースに映画化、原発の是非を問ひかけます。

今作は、時宜にかなったテーマの映画づくりにこだわった「日本の青空」シリーズの3作目。脚本はジェームス三木が書き下ろし、監督は、社会派のドキュメンタリー映画を多数手がけてきた池田博穂が、今回初めて劇映画に挑みます。

1969年 6月	「新潟日報」のスクープで町民が初めて巻原発計画を知る。
1971年 5月	東北電力が巻原発建設計画公表。
1977年 12月	機動隊に守られて巻町議会「原発建設同意」を決議。
1994年 10月	自営業者らが「巻原発・住民投票を実行する会」を結成。
1995年 2月	「実行する会」による自主管理の住民投票実施。投票率45.4%。原発反対9854票、原発賛成474票。
2月	臨時町議会を反対派が流会に追い込み、町有地の売却を阻止。
4月	町議選で住民投票条例制定を公約した12人(過半数)が当選。
12月	「実行する会」が1万231人分りコール署名提出、佐藤町長辞職。
1996年 1月	町長に「実行する会」の笹口孝明氏が当選。
3月	町議会、全国初の原発住民投票実施を可決、投票日確定。
8月	4日住民投票実施。投票総数2万503票(投票率88.3%) 原発反対12478票(61.22%) 原発賛成7904票(38.78%)
1999年 8月	笹口町長が「住民投票の結果を守るため」予定地内の町有地一部を「実行する会」の23名に売却。
2003年 12月	町有地売却訴訟、原告の原発推進派訴えは最高裁で棄却。これを受け東北電力は「計画断念」の声明。

2013年/日本映画/ビスタサイズ/120分 ©「日本の青空Ⅲ」製作委員会

<試写会>

5月16日(木) 18:30~ 県教育センター4F (製作協力券で入場下さい)

<本上映会>

6月22日(土) 国際交流会館 地下多目的ホール

上映時間: ①10時~ ②14時~ ③18時~

入場料: 1200円、製作協力券(1000円)でも鑑賞できます

主催:「渡されたバトン さよなら原発」上映福井実行委員会

連絡先: 福井県民主医療機関連合会 TEL:0776-27-6648 FAX:0776-25-6793